

F X投資のススメ*

今週のドル相場の動向【3月15日号】

**

12日のNYダウは、朝方発表された2月の米小売売上高が増加したことが個人消費の回復期待となって上昇。ただ、その後に発表されたミシガン大学3月の消費者信頼感指数速報値が事前予想を下回ったため、ダウはマイナスに転じ目場面もありましたが、16日のFOMCを前に様子見ムードが強まり、12ドル高の10624ドルと小幅高で引けてきました。

このまちな個人消費関係の指数により、米経済の成長見通しに不透明感が増して米・長期債券市場が買われる展開となり、30年債の入札は好調に推移しました。この一連の動きで、米・長期金利は3.70%とやや下落し、ドルは対欧州通貨で売られる展開となりました。

今週の動きは、ユーロの戻りが注目となります。先週末のドル・インデックスは0.46ポイント下落して79.81ポイントで引けており、80ポイントを割れてきました。市場はドル売りの方向に振れてきていると考えられます。

市場は、ドル売り・ユーロ買いにシフトしてきた可能性があります。例年、3月に入るとユーロが強含み、ここで勢いづく年央にかけて上昇トレンドを描きます。したがって、ユーロ買いが継続するのか、それとも一過性の戻りで再び下落するのかを注視する必要があります。

なお、ユーロのマイナス要因としては、ギリシャ問題があります。

先週ギリシャが10年債を発行して50億ユーロの調達に成功したことで、当面の危機は去りました。しかし、6.25%と想定外の高い利率となったことから、この金利コスト増により財政削減計画が暗礁に乗り上げる懸念が生じています。

これが、ユーロの足を引っ張る可能性があります。さらには4月、5月に国債の償還を迎えることから、その償還用の原資の手当てについても、ギリシャ政府が乗り切れるかどうか、市場の注目となります。

一方、ドルは米国の経済に対する信認が強まるとタカ派的な発言が出てくると予想され、今週のFOMCでの文言に注目が集まっています。タカ派的な表現があればドル買いにつながり、ドル・インデックスが80ポイントを回復するとみられます。

株式市場はNYダウ、日経平均が堅調に推移しており、FOMCで超低金利政策の継続が確認され、日銀の政策金利発表で追加金融緩和策に舵を切ってくると、株式市場には好材料となって日米共にもう一段上げる可能性が高まります。

株高 → リスク回避の緩和の動き → ドル安・円安 となって、ドル円、クロス円、ユーロドルに上昇圧力がかかってきます。

現時点では、各通貨ペアはポンド円を除いて、25日線より上を維持しており、短期的に上昇ムードが強まっています。

当面、ドル円、クロス円は円安方向、ユーロドルはドル安・ユーロ高の基調となって動くものの、要人発言や金利・株式動向により下ブレリスクもあるという難しい相場展開が続くと考えます。

エントリーのタイミングでは、高値圏での買いや、安値圏での売りはリスクが高くなっていることを念頭に、トレードに臨んでください。

さて、今日の日経平均ですが、買い先行でスタートしたものの高値警戒感から利食い売りに押される展開。先週末の段階で25日線との乖離率は4.88%に達しており、やや過熱感が台頭しています。なお、商いの薄い状態が続いていることが気になります。短期的な資金で持ち上げているとの観測もあり、資金の逃げ足は速いと考えられ、今日は前日と変わらずの10751円で引けてきました。

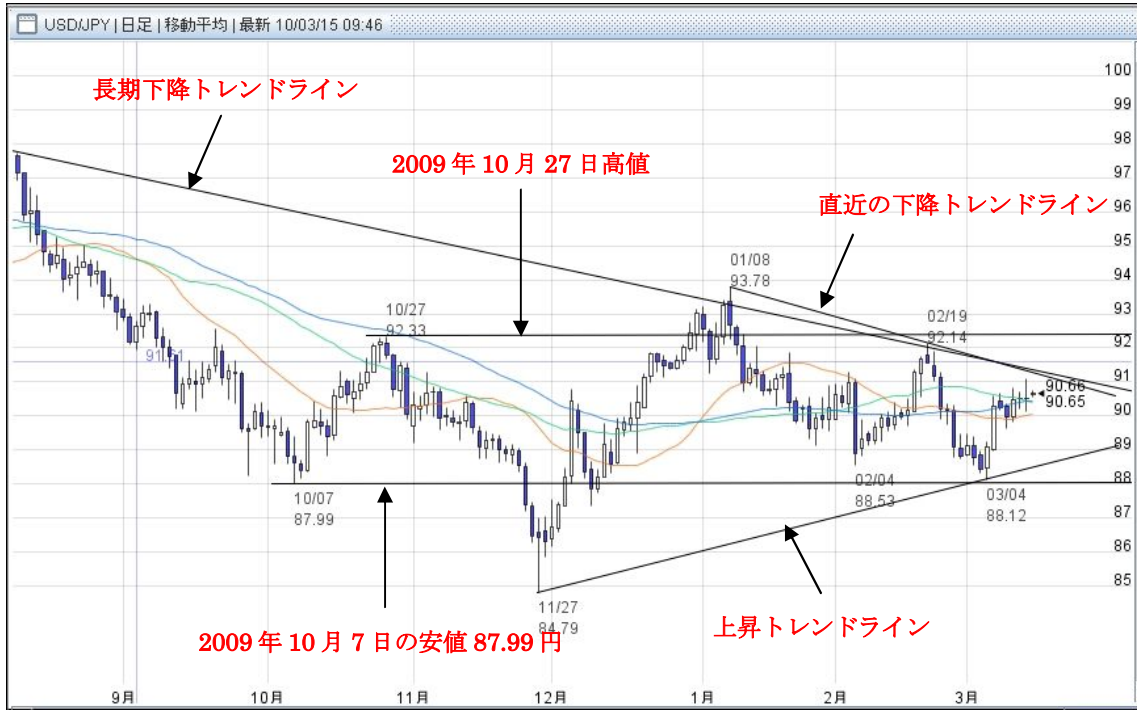
今日の為替市場は、日経平均の上昇を先回りした買いでドル円・クロス円が上に窓を開けてのオープニングとなりましたが、日経平均が利食い売りで値を下げてくるとリスク回避の動きが強まり、ドル高・円高に振れる場面もありました。ただ、このところの上昇により、上値では一旦利益を確定しようとの思惑で売られており、下値は買い意欲が強まっているため堅くなっており、市場はこう着状態となって推移しています。

ドル円の大まかなトレンド

長期的には↓ 中期的（数ヶ月）は→ 短期的（1週間程度）は→か↓



USD/JPY (ドル円)



[想定レンジ] 89.5~91.1 円

今週はドル円はまず、長期下降トレンドラインを確認してください。目先の上昇はこの上壁を越えるか、それとも、跳ね返されるのかで、今後の流れを読み取る大きな材料になります。

そのため、90円台半ばから後半に差しかかかったら売り、88円台半ばに入れば買いという逆張りトレードをする必要があります。どちらが先になるかは、欧州通貨の動向次第ですから、上下で指値をしておくべきでしょう。しかし、こういった戦略を立てた場合、突如トレンドが発生するなどの予測とは違う展開になる可能性があります。逆張りである以上、ストップロスはやや狭くして、急な動きでも対処できるように備えておきたいものです。

【今週の経済指標一覧表】

日付	国内	海外
3/15(月)		 3月 NY 連銀製造業景気指数  1月対米証券投資  2月鉱工業生産指数
3/16(火)		 RBA 理事会議事録公表  3月 ZEW 景況感調査  2月ユーロ圏消費者物価指数  2月住宅着工件数  2月建設許可件数  FOMC・政策金利発表（現行 0.25%）
3/17(水)	 日銀・政策金利発表  白川日銀総裁会見	 英中銀 MPC 議事録公表  2月失業率  2月失業保険申請件数  2月2月米生産者物価指数
3/18(木)		 2月消費者物価指数  新規失業保険申請件数  3月フィラデルフィア連銀製造業景況指数
3/19(金)		 トリシェ ECB 総裁講演  2月消費者物価指数  1月小売売上高  1月小売売上高

内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当方は一切の責任を負いません。投資に関する最終的な決定は、読者ご自身の判断にてお願いいたします。

Copyright (C) 2008-2010 (有)アクロサーブ All Rights Reserved.

このメールの無断転用・転載を禁止します。